

やまなし自然首都圏構想研究会 二拠点居住推進部会 第1回ワーケーションワーキンググループ議事録

日時：令和2年10月23日（金）12:30～14:00

場所：山梨県庁防災新館 401会議室（テレビ会議）

◆出席者：【座長】

丸山 裕貴 東京大学未来ビジョン研究センター 受託研究員

【委員】※50音順（市町村は建制順）

佐藤 優 （公社）やまなし観光推進機構 観光産業支援部長

田中 敦 山梨大学生命環境学部 地域社会システム学科 学科長
観光政策科学特別コース 教授

中澤 大 山梨県旅館ホテル生活衛生同業組合 副理事長 青柳 文人
代理 理事

田中 佐記子 北杜市役所 観光課長
代理 主幹

土屋 正和 笛吹市役所 観光商工課 主査 山形 信寛
代理 （一社）笛吹市観光物産連盟 事務局長

望月 昌也 身延町役場 観光課 副主幹

朝比奈 伸次 富士河口湖町役場 観光課 係長

【庁内メンバー】

リニア交通局 地域創生・人口対策課長、森林環境部 森林環境総務課長、
産業労働部 労政雇用課長、観光文化部 観光資源課総括課長補佐、農政部
担い手・農地対策課長

【オブザーバー】※50音順

大川 正勝 （株）JTB 甲府支店 支店長

北辻 巧多郎 （株）LIFULL 地方創生推進部 LivingAnywhereCommons グループ
企画・営業 WorkingAnywhere プラットホーム構想担当

小林 宏至 （株）日本旅行甲府支店 支店長

【事務局】

リニア未来創造・推進課長、リニア交通局主幹

- ## ◆会議次第：
- 1 開 会
 - 2 出席者紹介
 - 3 やまなし自然首都圏構想研究会について
 - 4 ワーケーションワーキンググループについて
 - 5 議 事
○ワーケーションの推進について
 - 6 閉 会

○議事

【「ワーケーションについて～国内の動向～」(資料4)について】

田中委員

- ・ ワーケーションの現状等について、基本的なところを含めて少しお話をさせていただきたい。
- ・ ワーケーションについては、いろいろな定義がされているが、特に国の方が積極的にワーケーションを推進するというふうになってから、非常に認知度の高い言葉になってきて、わかりやすくいうと、休暇の途中に少し働くということだが、様々な解釈や、期待や効果というところがかなり混在しているのが現状と考えている。
- ・ 私は、ワーケーションを4つのスタイルに整理。
- ・ 1つ目が、休暇の最中に、仕事をするというタイプ。日本では日本航空がワーケーションの先進導入事例と言われているが、日本航空の場合は、休暇中に働ける時間は休暇の中の半分以下と決められたりして、あくまでもバケーションを中心に、休暇中に一部仕事を取り入れることで長期の休暇を取りやすい効果があると言われている。
- ・ 2つ目が、仕事と休暇を混在させるというもの。例えば1日のうちでも休暇先で早めに起きて、サーフィンなどを行った後で仕事をするなど、完全に仕事と休暇を分けるというよりは、かなり境界線を曖昧にすることによって、新たな価値やアイデアが生まれやすくなる。実際にこうしたことができる業種や職種は限られるかもしれないがイノベーションを生み出すきっかけになるのでは、とも言われている。
- ・ 3つ目が、ブリージャー。これは出張の前後に休暇をまぜ込むような形。
- ・ 4つ目が、私は日本独特のものだと思っているが、オフサイトミーティングとか持ち出し会議と言われるものや新しい商品や企画を考えたりとか、エグゼクティブミーティングなどと言われている事業計画を考えるための会議を行うことなどが含まれる。日本では、各行政も、こうした形態もワーケーションとして取り扱っているが、他の類型と異なるのは、会社の研修や企画会議は、その時間帯は会社の勤務になる。ここが制度的には違うところだが、会社以外のところで様々な活動するという意味で、これら4つの類型をワーケーションというふうにして、7月27日の観光戦略実行推進会議でも紹介させていただいている。
- ・ ワーケーションは、皆さんお気づきのように、実はいくつかのステークホルダーが絡んできている。
- ・ メインになるのは、実際にワーケーションを行う、すなわち従業員である。
- ・ 次に、こういった制度を導入する企業。従業員に対してできるような仕組みづくりやワーケーションをとりやすい風土を作っていくことが重要になってくる。
- ・ 働き手の人たちが実際にワーケーションを行う場所という意味では、受け入れている地域とか、総合的にワーケーションを広げようとしている行政、さらには、コワーキングスペースとか、サブスクリプション型の住み放題のような宿泊形態とか、リビン

グとワークスペースを一緒にしたコリビングのような施設、様々なものができているが、こういったワーケーションに関わる事業者などもステークホルダーとなる。

- ・ 現在の状況としては、国が力を入れたことも含めて、受け入れ先の行政や地域が、様々な課題解決、例えば山梨の場合は二拠点居住に繋がる施策の一つとして、力を入れているところが増えてきている。宿泊・観光事業者については、コロナの影響でインバウンドがほとんど来なくなってしまったが、近隣の国内旅行が徐々に解禁になってきたので、このワーケーションを突破口にしよう、あるいは、平日需要とか長期休暇の推進を期待した動きも出始めている。
- ・ ワケーションの普及に向けた地方の動きということで、山梨県もメンバーに入ったということで先ほど報告があったが、ワーケーションの自治体ネットワーク（WAJ）がある。
- ・ やはり地域において、企業に勤めている人とか、或いは、例えば長野県の軽井沢町の場合は、別荘に住んでいる人とか、観光で来る人とか、様々な多様性を実現していくというスタイルをとっていて、やはりこれから山梨で考えていく上で、どういったところをターゲットにしていくかということも併せて考えていく必要があると考えている。

【二拠点居住推進部会における議論について】

丸山座長

- ・ ここで、意見交換に入る前に、二拠点居住推進部会における議論について私から簡単に説明させていただきたい。
- ・ 9月15日火曜日に10時から1時間半ほど開かれた会議で、東座長のもと、委員の方々、県からは長崎知事からもご出席いただき、この二拠点居住をどのように推進していくかということについて議論がされた。
- ・ 「負担が少なく利用しやすい不動産の用意や移動のコストへの支援が必要」、「子育て世代が一定の期間山梨で暮らすことになった際、子どもが山梨で小中学校に通え、出席日数が合算できるといった教育体制が整備されると良いのではないか」、「二軒目の住宅の取得の際にも住宅ローン控除が適用されるようにすることは可能か」、「有名な個人シェフを誘致し、県内に美味しいレストランを増やしていくことが必要なのではないか」など、軽井沢の事例を挙げながらご意見いただいた。
- ・ また「個人の移住だけでなく、法人の移住も一つのテーマとして位置付けていくべき」、「移住の相談に来た方から、県内のシェアオフィスやコワーキングスペースの情報をまとめたポータルサイトが欲しいという声がある」、「人の受け入れのために最も問題となるのがコミュニティ。人・情報が集まり、悩みや課題を解決できるコミュニティづくり、またそのコミュニティの核となる人材の育成が必要」、「東京だけでなく名古屋、大阪からの人の取り込みも意識していくべき」、「移住者へのコンシェルジュのよ

うな役割を担うことも踏まえ、画面付きのAIスピーカーを使いながら、Ma a Sや遠隔医療を誰でも利用できる仕組みづくりが必要」、「インセンティブの付与等によって、二拠点居住者を把握していくことが重要」、こちらのATMを利用する際に、何かサービスを付与してあげる代わりに、そういった利用者、実際に二拠点居住を推進されてる方の個人情報の把握をするのが必要じゃないかといった意見が出た。加えて、「ヘリコプターの乗り入れ環境の整備など、ハイエンド層をいかに巻き込んでいくかが重要である」とのご意見をいただいた。

【庁内各課とワーケーションとのかかわりについて】

丸山座長

- ・ 当ワーキンググループには、山梨県として全庁的にワーケーションを推進するため、部局横断的に庁内の関係課が参加している。リニア未来創造・推進課以外の各課から、それぞれワーケーションとのかかわりについて説明をお願いしたい。

地域創生・人口対策課長

- ・ 当課は名称も地域創生・人口対策課と、ワーケーションにかかわりが深いと思われる方もいらっしゃると思うが、当課は2担当で構成されており、課員は今13名、その中でワーケーションに関わる担当として、移住・二拠点居住担当があり、この担当でワーケーション或いは移住の事業を推進。
- ・ 二拠点居住に関わる業務について説明すると、当初から、移住・定住相談を実際に行っており、東京に2拠点、山梨に1拠点の計3拠点の相談窓口を設置。東京の方にやまなし暮らし支援センター、やまなしUIターン就職支援センターがある。山梨県の方にふるさと山梨定住機構がある。それぞれ専門的な相談に乗っており、相談件数が一番多いのはやまなし暮らし支援センター。
- ・ 移住に関するセミナーを年間20回以上開催しており、大規模、数百名程度のものから数十名程度のものまで各種取りそろえており、山梨の農業とか食とか、観光文化とか、いろんなテーマに絞って開催をして、東京圏を中心とした移住希望者の更なる興味関心をひき、山梨へぜひ移住してきてもらいたいというもの。
- ・ 資料3のP1にも記載があるが、プロモーション活動もしており、東京FMのラジオにデュアルでるるという番組を放送しており、皆さんお聞きになっているところであるけれども、毎週日曜日、朝8時半から8時55分、25分間放送しているので、ぜひ皆さんご視聴いただければと思う。
- ・ 移住専門雑誌への記事の投稿、新聞テレビ、SNS、HP、さらには動画によって、それをSNSやホームページ等でいろんな方にご覧いただきたい考えている。
- ・ 本日、県のホームページでアップしたところだが、企業の移転、仕事移転に関するニーズ調査を実施する。調査でいただいた企業様に対する相談会、また、山梨に実際に

でもらう現地視察を5件ずつ今年度中にやっていきたいと考えている。本日プロポーザルについて県のHPに載せたので、ぜひご関心ある皆様に手を挙げていただければありがたい。

- ・ サテライトオフィス・コワーキングスペースの整備に対する支援もある。これも9月補正予算で、予算を獲得したもので、予算規模1億円ということで、かなり大規模。1件あたり補助率2分の1で1,000万円ということで、市町村の方々においては、この補助金を活用する中でサテライトオフィス・コワーキングスペースの整備に邁進していただければと考えている。

森林環境総務課長

- ・ 森林環境部では、森林空間の活用ということで、特に県有林において、保健休養機能の活用を推進。具体的には、県有林の中でも、森林公園とか森林文化の森などにおいて、森林レクリエーションや森林セラピー、それから林業体験とか環境教育など、様々な分野や地域と連携をしながら実施。
- ・ また、「清里の森」の別荘地の運営も行っており、別荘地やペンションなどを活用して、他県地域からの誘客促進に努めているところ。
- ・ 先ほど資料3のP1、9月補正予算の中で、「事業用地としての県有地活用」という説明があったが、この事業の予算規模は780万円程度ではあるが、その経費を計上し、今後、八ヶ岳学校寮地区の空き区画を活用するため、企業の活用の意向や企業ニーズに対する土地の適応状況などを調査し、企業誘致につながるよう未利用県有地の調査を検討するもの。
- ・ 最後に、森林セラピーの話に関して、平成30・31年度の実績では、平均すると約50回の開催で、延べ300人程度の利用者がある。森林の持つ魅力を発信することで、二拠点居住につながることを期待。

労政雇用課長

- ・ 労政雇用課では、労政担当と地域雇用担当があり、労政担当の方で、魅力ある職場づくりということで働き方改革関連のことを担当。その中には県内企業へのテレワークの導入の推進がある。地域雇用担当の方では、学生の皆さんに対しては就職支援、企業の皆さんに対しては、人材確保支援として、合同就職説明のようなものを年間何回か開催。
- ・ また地域創生・人口対策課と連携して、やまなし暮らし支援センターに就職相談のコーナーを持っており、当課の職員もそこに配置されている。

観光資源課 総括課長補佐

- ・ 先ほど事務局からも説明があったところだが、より具体的に内容を補足する形で、再

度説明させていただく。

- ・ 観光資源課では、9月補正で、ワーケーションの環境整備を図るために予算を計上。
- ・ ハードについては、予算額が1億5000万円、主要観光地で、宿泊施設やキャンプ場が行うワークスペースや事務用品等の環境整備等に対して支援をしていくという内容。
- ・ 主要観光地についてはモデル地域として、石和温泉郷、下部温泉郷、清里、富士河口湖4地域を想定し、補助対象事業者としては、各地域の観光協会、宿泊施設、およびキャンプ場。各施設については、上限1000万円、15施設、補助率は2分の1を想定している。
- ・ またソフト面については、受入体制整備に向けた支援として、2,323万2千円を予算化し、先ほど申し上げたモデル地域において、観光協会とか、先駆的にワーケーションを実施していくための体制整備や人材育成、また就農を意識した農業体験や森林セラピー等の自然体験などの本県独自の体験プログラムの造成、企業への情報発信などを総合的に実施することを予定。
- ・ さらに、モデル地域での事業成果等を踏まえ、県内全域で活用できるマニュアルの作成等をしていくこととしている。
- ・ 今後、プロポーザルをして内容等を固めていく予定。
- ・ ワケーションの関連施策として、二次交通の連携強化の観光MaaSの整備についても、同じ観光文化部として実施。簡単に説明すると、本県は首都圏に隣接近接しており、自然が豊かであるといった優位性があるもの、内外からの観光客の宿泊者数の約56%、外国人旅行者に至っては約8割を超える方々が富士山周辺の地域に訪れているといった地域偏在、二次交通が十分に整備されていないといった課題があり、それらを解決するために、この事業予算を計上。やまなし観光MaaSにおいて、提供を予定するサービスとしては、統合された移動手段の提供、予約支払いの情報、観光サービス連携による新たな周遊観光価値の創出、収集したビックデータの利活用等のサービスを考えているところ。事業執行のスケジュールとしては、早ければ今月末にプロポーザル、推進企業を選定、12月に推進協議会を設立、来年の2月からは具体的なシステムの構築や連携等を図りながら、来年10月に実証実験、それを受けて検証や調整を行い、R4年4月からの運用を目指すこととしている。

担い手・農地対策課長

- ・ 本県の農業の担い手の状況については、本県で新規に農業を始める方は毎年約300人ほど。ご自身で農業を始める方、農業法人などに雇用されて農業に従事する方の大きく二つに区分され、近年では、雇用就農者の割合が大きくなってきている。本県では、東京圏に近く、日照時間が長いという農業に有利な環境であるため、県外から本県に就農する方が全体の約3割を占めている。農業に興味を持ってから実際に就農するまでの、各ステージにおいて、技術研修など、国や県の事業により支援を実施している

ところ。

- ・ ワークーションで本県を訪れる方々に、果樹の袋掛け作業や収穫体験等を行っていただき、農業に関心を持っていただくとともに、新規就農のきっかけづくりにしていきたいと考えている。

【各市町村におけるワークーション関連の取組について】

丸山座長

- ・ 続いて、各市町村におけるワークーション関連の取組について、各市町村からご説明をお願いしたい。

小尾委員代理 田中氏

- ・ ワークーションに取り組む自治体ということでご紹介をいただいたが、実際行政レベルでは、そんなに先進的な事例はないかもしれないが、民間事業者がコワーキングスペースに対応して、5ヶ所ほどそういったスペースを設置して皆さんに活用していただいている。
- ・ 北杜市は別荘がかなりあるので、別荘を活用した個人的なオフィスのようなものを作ってらっしゃる方も個々にはいると聞いている。
- ・ 私は観光課で観光振興担当をしており、他に移住定住とか、二拠点居住推進の関連では、企画課という部署が創設されていて、そこで直接的な取組をしている。移住後の雇用の創出については、商工・食農課で対応している。
- ・ 私たちは観光振興担当なので、今お話を伺っていて、観光課の役割としては、市内にワークーション施設が設置された後、室内ばかりにいてはいけないので、例えば、外に出ていただいて、どこか周遊をしていただく仕組みづくりを行うなどにより北杜市に興味を持ってもらい、将来たくさんの方に来ていただけるよう期待している。
- ・ 先ほど出たような、二次交通の課題等もあるので、今様々な観光庁の補助も使って、事業も行っているところなので、そういった事業等とあわせて、課題の解決につなげていければいいなと思って伺っていた。
- ・ まだ勉強途中であり、いろいろと先進的な事例はないが、また勉強させていただいて、関連する部署と連携しながら、参加していきたいと思っている。

山形委員代理 土屋氏

- ・ 本市においても、あまり先進的な事例は特にはないが、やはり笛吹市としては、桃やブドウが日本一であり、温泉郷もある。そういったものを有効活用し、今後は取り組んでいきたいと思っている。また農業体験等も、農林振興課で担当しており、移住定住についても企画課で推進しているため、今後は連携を図っていきたい。
- ・ 観光物産連盟では特にイベントを主に担当しているが、このコロナ禍でイベント等も

中止となっており、宿泊施設の関係の方たちや観光園の方たちは大変ご苦労されている、今後このような取り組みが普及すれば、地域の活性化にもつながると期待する。

- ・ また皆様方の意見を聞きながら、一緒に勉強していきたいと思う。

望月委員

- ・ 身延町では、身延山久遠寺周辺の宿坊や、下部温泉郷のホテルや旅館、本栖湖西岸のキャンプ場等、ワーケーションを推進できる宿泊地と観光資源があるが、行政が主体となったワーケーション推進への取り組みは現状では進んでない状況。
- ・ 別の部署にはなるが、企画政策課では地方臨時交付金を使い、サテライトオフィスの誘致に取り組み始めた。
- ・ 民間の独自の取り組みとしては、身延山にある端湯坊という宿坊で、瞑想や写経をしながら働くテレワークというワーケーション事業を実施しており、利用者からは仕事がかどると好評を得ている。
- ・ 私自身、今年観光課の方に配属されたばかりで、まだまだ勉強不足のところもあるので、また皆様のご意見を伺いしながら、一緒に勉強させていただきたい。

朝比奈委員

- ・ 本町についても、ワーケーションの先進的な取り組みというものは、特に目立ったことはやっていない。
- ・ 昨年度までは、ご存知の通りインバウンドの盛んな町であり、そういった環境整備については、WiFiの整備については、昨年、今年も行っていて、町中で接続できるよう取組を進めている。
- ・ ワーケーションの取り組みについては、他の課との連携ができておらず、私もよくわかっていないが、共通した認識を持ち、これから勉強していきたいと思っている。
- ・ 現在は、結局、コロナ禍で、町の観光施設についても、インバウンドは全然期待できないので、国内観光客の誘客を主に考えており、ワーケーションの受入については、まだまだ取り組みが薄いと感じている。
- ・ 最終的に、ワーケーションが全国的に普及していったら、二拠点居住や移住定住に結びつき、段階的、最終的に県内、町内の人口の増に繋がっていけばよろしいのかなと思う。

【意見交換 ①本県としてどのようなワーケーションを推進すべきか】

丸山座長

- ・ ここからは、出席者の皆様からご意見を頂戴しながら進めさせていただきたい。
- ・ これまでの説明を受けて、まず、山梨県としてどのようなワーケーションを推進すべきかについて、意見交換をして参りたい。

- ・ ぜひ、本日、オブザーバーにも出席いただいております、ぜひ民間の事業者の方々もご意見をお願いしたいが、いかがか。

オブザーバー 小林氏

- ・ 取り組みがまだまだ始まったばかりだと思うが、やはり人材育成と、ソフト面、ハード面、こちらの方がすごい重要になっていく。
- ・ 目的として、いわゆる環境整備をしながら、ご家族も一緒につれてくれるような環境を作っていくと、非常にいい関係を整備できるのかなと。
- ・ 今までの議論の中では、一緒に同行される方々の部分は、なかなか出てこなかったので、一緒に連れていらっしゃるような、ご家族の方々のごことも考えてあげると、先進的に進んでいくのではないかと感じた。

オブザーバー 北辻氏

- ・ 現在、山梨県の中に我々の多拠点のコリビングサービスの拠点(LivingAnywhereCommons)が、北杜市、富士吉田市の2カ所にある。
- ・ 実は北杜市も10月あたりにオープンしたばかりなので、どのくらいかということは、まだまだお答えできるレベルではないが、所感としては、とても人気になっている。
- ・ 人気の理由としては、やはり自然豊かなところで働きたいというワーケーションビギナーの人達が来てくれているという認識がとてもある。
- ・ そこで課題になっていることが何かというと、交通。二次交通までかけないといけないというところが、もう少し何とかならないかなというのはいただいている。皆さんの交通手段としては、東京から車で来るっていうケースが、やはり今多いような状態になっているが、車を持っていない方、もしくは免許を持っていない方も、どんどん使っていただきたいと思っており、この辺り、皆さんのお知恵もいただきながら、逆に我々ができることもご提供させていただきながらと思っていいる。

丸山座長

- ・ やはり山梨は自然豊かなところが非常にビギナーの方にも受けているということかと思うが、他にご意見いかがか。

オブザーバー 大川氏

- ・ 私どもの会社では、ワーケーションについては本社を中心に取り組んでいこうということで、今動き出しているところであり、特に今力を入れているのが、企業版ふるさと納税とワーケーションをどうマッチングさせていくかというところで、結構研究をしている。
- ・ 企業がその地域に納税をすることで、例えばその課題がワーケーションということ

であれば、そこにお金を入れて、ワーケーションを発展させ、そして、その企業にもどうメリットを持たせるかというところで、使ってもらおう。そういうことをできないかということで、東京の事業部が、大きな企業に営業にいて、ふるさと納税できないかという話をしている。

- ・ 今回、山梨県の中で言えば、何が一番目的になるかということで、今お話を伺っている中で、二拠点居住者、これを増やしていくことが目的だと。
- ・ そのためにこのワーケーションを作っていく、使っていくのであれば、例えば、どこをターゲットにしていくのかというような議論もあっていいんじゃないかと感じている。
- ・ データ等がないので、田中教授をはじめ委員の方々にお伺いしたいのだが、今ワーケーションを利用している方は、やはりIT従事者とか個人事業主の方が多いのか、それとも企業が、バックアップをして、ワーケーションを推奨することで実践している人が多いのか。

田中委員

- ・ ワケーションは、知名度が7月に本当に一気に上がったが、やはりこれから制度をきっちり作って導入する企業がまさにこれから動き始めるってタイミングではないかと思う。
- ・ 一般に企業がいろいろな制度を変えていくのは、年度の変わり目か、年度が変わって少し先、例えば6月とかのタイミングが多いので、まさにこれからいろんなそういった環境が整備されていって、国のガイドラインとか、様々な事例とか、経団連とかもいろいろ動いていくものと考えられる。
- ・ このため、現状ワーケーションを使っている人はどうなのかという話になれば現実的には、やはりかなり限られた職種であったり、企業に勤務をしても、割とフリーランスに近いというか、自由度が高い人たちの利用が多いが、来年度は予定通りオリンピック・パラリンピックが開催されるかにもよるが、もともとは夏の期間に、長期休暇を取れたりとか、都心に様々な人が入ってくるということについてイベント中は避けたいといういろんな思いと、今のテレワークの普及度合と全体の働き方改革の流れからすると、来年度は大きく取り巻く環境が変わると思うし、こうした景色の変化をしっかり捉えられるために、今からどういう準備をしていくのかということが大切と思う。

丸山座長

- ・ まさにこれから環境を作っていくということになる。
- ・ 他の委員からも、山梨県として、どのようなところを強みとして、ワーケーションだったり、その先二拠点だったりを進めていくかといった視点で、ぜひご意見いただきたい。

佐藤委員

- ・ 私は、基本民間の人間で、東京と山梨を16年ずつ仕事で行き来していて、向こうから見た視点も、東京の人たちの考え方もある程度は理解できるところだが、実は田中委員と一緒に、昨年の7月からWAJの関係で、いろいろとワーケーションがマーケットになるのではないかと動いていた。
- ・ 県内もどこがどういうワーケーションの可能性があるのか調査していて、山梨県は田中委員のご説明の通り、非常にいいところだと思う。
- ・ 私が昨年から考えてきた中で、田中委員のワーケーションのパターンの中の1（休暇活用型）と2（日常埋め込み型）については、多分個人事業主みたいな個人はマーケットになるのではないかと考えている。
- ・ 3は中間（ブリージャー）だが、4（オフサイト会議）は完全に企業にアプローチすべき課題かと思っている。
- ・ 県内を見ながら、企業にアプローチしても難しいだろうなという地域もあるし、ここは企業にアプローチを重点的にやったほうがいいなという地域もある。どっちにもつかえるような地域もあるかなと思う。
- ・ 最近、たまたまテレビを見ていたら、最近の自然災害発生時の避難場所を人間はどうやって選ぶかという話の中で、大都市圏で大雨が降って、例えば江戸川区が洪水で、住めなくなったといった時に、人は、必ず1回行ったところ、わかっている地域へ逃げる、という話が放映されていた。
- ・ とすれば、今、県の方でもすごく予算を計上して、ワーケーションを進めているので、あまり特徴のない地域でも、（都市部の）自治体とワーケーションしてみませんか？というプロモーションを打って、その自治体とリンクをしていくという形をすると、ずっと来やすくなると思うし、資料3のP1の中で、ステップ1、ステップ2、ステップ3ってあって、2と3がすごく予算措置をとられて、いろんな関係部署から提案をいただいていると思うので、問題は興味・関心のステップ1のニーズ喚起のところにかにターゲットをちゃんと絞り込んでやっていくかというのがすごく重要ではないかと思う。
- ・ 山梨県は、説明もあった通り非常に地理的にも恵まれているので、ぜひこれをやれば、進んでいる長野とか、そういうところに勝てるチャンスは十分今からでもあると思っているので、一緒に皆さんと知恵を出していきながら、ワーケーションにアプローチしていきたいと思う。

丸山座長

- ・ 山梨県として先進的にワーケーションに向けてステップワン・ツー・スリーで進めていくということだが、他の方ご意見いかがか。

青柳委員代理 中澤氏

- ・ 佐藤委員と同じような意見だが、甲府の場合は東京に近いのでサテライトオフィスの要素の需要もあるだろうし、逆に清里とか河口湖とかの場合、自然が豊かでリゾート的な使い方もあるので、場所によってかなり違ってくるところをどう取りまとめていくかというところが必要かなと思う。

丸山座長

- ・ 個人的に山梨出身で、東京で大学から過ごしているが、やはり山梨は自然豊かで、これは非常に強みだなと思っている。
- ・ 最近で言うと、発酵文化、食の分野では、味噌であったり醤油であったり、地のものというか、山梨には、ワインもちろんあるし、食といったところで、海はないけども、自然豊か、そして水もあるし、富士山もあってといったところを強みにして行って、やはり東京からのアクセスのしやすさ、車でも電車でも状況に応じて変えていけるところ個人的には強みかなと思っている。

【意見交換 ②県、市町村、各民間事業者がすべきこと、果たすべき役割とは】

丸山座長

- ・ 続いて、どのようなワーケーションを推進すべきかについての意見を踏まえて、県、市町村、各民間事業者がすべきこと、果たすべき役割について意見交換を行いたい。

オブザーバー 北辻氏

- ・ 民間として、まさに我々が今やっていることかと思うが、やはりその地域でのプロジェクトを作るというところを今強めている。
- ・ というのも、我々は全国に今 10 拠点、コリビングサービスを展開していて、これが 2023 年に 100 拠点になっていくような設計をしているが、その中でももうすでに山梨県の方には 2 拠点あり、じゃあその 10 拠点のうち、東京にいらっしゃる皆さんや大阪の皆さんはどこに行くのかという時の、判断軸を作っていきたいと思っている。
- ・ 1 つは、まさにバケーションで自然豊かなというのは、もう二重丸だと思うが、そこに自分の仕事に繋がるであったり、教育にいいだったり、何かしらのその理由をつけていきたいとは思っていて、まさに北杜市の八ヶ岳北杜という拠点では、新しい暮らしの実験というテーマで今取り組んでいる。
- ・ そこに興味がある方々がどんどん来ていただくような仕組みづくりを行っているというのが現状なので、そこに一緒にいただけるような企業さんであったり、まさにその行政の方々であったりというのはどんどん巻き込むことで、ステークホルダーがどんどん増えていくと、何か我々としても嬉しいと思っている。

丸山座長

- ・ そういったいろんなプロジェクトを通じて、山梨の良さであったりいろんな仕事があるといったところを体験しながら知ってもらうという取り組みを進めていったらという観点からの意見だったが、他にいかがか。

佐藤委員

- ・ 今話のあった八ヶ岳の LivingAnywhereCommons には、オープンのおきに試してみても、非常に特徴のある施設で、私も使ってみようと思うような興味深い施設だった。
- ・ ワークーションじゃなくてマニファクチュアのマニケーションにしたらどうかと思っただけくらい特徴がある。
- ・ この施設は、木工のカッティングボードとかCADでどんどんカットして物をつくらせてしまうというような設備を設けた施設。
- ・ なので、地域に特徴がないと思っても、そのような面白い、そういうような特徴のあるものを、それぞれの市町村で、もし自然という強みがあればそれでいいんですけども、そういうものがないところでも、しっかりとしたコンセプトなりを持って、アピールすることが大切。さっき申し上げた通り、ニーズの把握とか興味関心を持たせるところに集中していただければ、山梨は勝てるポテンシャルはもう十分あると思うので、それを見せるところに注力したらなど。それは私が所蔵しているやまなし観光推進機構も同じなので、そちらの方に積極的にシフトしたいと考えている。

丸山座長

- ・ ケース毎にユーザーのニーズを満たす施設やサービスを考えていく必要があるではないかと思う。他にご意見いかがか。

田中委員

- ・ いろいろな活発なご意見、大変素晴らしいなと感じながら拝聴していた。
- ・ これまで、ワークーションには地方創生とか、それから課題解決に繋がるような様々な関係人口に関することがずっと言われてきたが、おそらく来年度以降に向けて、もっといろんな方たちがワークーションにチャレンジをしたりして行って、想定されているものを越えて、それぞれ多様なワークーションの過ごし方が生まれてくるのではないかと考えている。
- ・ そうなっていくと、多様性を受け入れるということも、施設の方もそうだし、地域の方も考える必要がある。やはり他の地域の人たちが来て、仕事をしたり、一緒にスーパーとかに行って買い物したり長く過ごしたりというのは、今までの旅行のパターン

と違うし、やや不思議な感じに受けられるかもしれない。

- ・ ということを含めて、やはり新しい旅のスタイルに対して、地域としてどういうふうに向かい合っていくのかということも一緒に考えていく必要がある。特に山梨県におけるワーケーションは、単発で1度だけ来てもらうのではなく、何度かリピーターとしてきていただき、その先にその二拠点居住があったり、或いはもしかしたら移住ということになると考えると、もしかしたら一度来たことが、かえって、もう二拠点居住とか考えても対象にはならないよねということになって、他にいつてしまうきっかけになるかもしれない。やはりそれぞれのエリアで、このところしっかり理解をし合いながら、それぞれ進めていくことが大事と思う。
- ・ それから、やはりワーケーションに関する山梨ブランドみたいなものができていくと良いと考えていて、そうなっていくと、それぞれの個性が大切だし、一つ一つのエリアそれぞれに魅力的な特徴がありつつ、全体を串刺しして山梨はやっぱり、将来のいろんな構造に向かって、ワーケーションに対して非常に力強、取り組んでいるんだと、エリアとしての魅力のブランディング発信をうまく進めるべきであろう。

丸山座長

- ・ 地元コミュニティへの結節といった話だと、二拠点居住推進部会でも、やはり住んでいただくためには地元のコミュニティにいかにか接続していただいて、それでもうこっちへ来るかと感じていただくか、まさにワーケーションはその入りなので、やはり各自治体の方において、ぜひそういったような施策を、私とかも、もう山梨が地元なので、知り合いが多いけれども、そうでない方も、ぜひ山梨を訪れてもらって、2回3回、ここにもう拠点を構えて、二拠点居住したいといったところまで進んでいただくような、コミュニティだったりとか、そのあたりが山梨に具備されていくと良いのではと思う。

事務局

- ・ 委員の先生方いろいろ活発なご意見ありがとうございます。
- ・ 二拠点居住については、先ほど丸山座長の方からもご説明ある中で、自然首都圏構想の中で、いろんなご意見がある中で、これまでどちらかと言うと、二地域居住ということで、週末だけ山梨にという形の中で、個人の方を対象にしていろいろ施策を取り組んできたが、今後知事としては、個人も当然ながら、企業団体の方にも、今後当然このコロナが続く、もしくは新しいまた何かパンデミックが来るというような社会の中で、そういった緊急時に対して山梨できちんと仕事をしていただいたりといったことも大事ではないかとも考えている。
- ・ そういった中で、今後ワーケーションがまず段階的な最初の部分になるが、企業とか団体から、また山梨注目していただいて、程度のまとまった形で来ていただけるよう

なこともまたぜひ今後ご検討いただきたいと思う。

丸山座長

- ・ 私も、ちょうど11月頭にオフサイトミーティングを行う予定で、それは、誠に申し訳ないが、千葉の弊社のグループのところに行くのだが、そういったところで、やはり普段いる東京の職場から離れて、少し普段の日常業務から離れて、もう一度、自分たちが目指すターゲットであったりだとか、今の仕事で成し遂げたいこと等を一步引いて考える機会を作るという点では、オフサイトミーティングの価値があると考えているし、やはりリモートワークが推進してる中で、一番重要なのはリアルの場におけるチームビルディング。
- ・ 強固な連携を作るといったところで、オフサイトミーティングの需要は、やはりリモートワークが推進するがゆえに、今後、非常に重要な民間企業における取り組みになってくるのではないかなと思うし、それが山梨県でできると非常に良いかなと個人的にも思う。

オブザーバー 北辻氏

- ・ 1点目にお伝えしたいところは、ぜひ弊社の拠点に皆さんで来ていただきたい。
- ・ 東京から来ている人間が、どういう思いで使っているのかっていうのがまさに現場で見られるので、そこを企画させていただければと思うし、委員の方々とお話させていただければなど。
- ・ 2点目が、実はこのズーム会議をする、プライベートな空間をどう作るかであったりとか、インフラの設備であったりとか、その辺りが結構課題ではあるので、この辺りは行政の方々とどのように手を取りあえるかというのは、課題感として大切と思っている。

小尾委員代理 田中氏

- ・ いろいろとお話を伺い、勉強になった。
- ・ 参加にあたって、直接観光課に声をかけていただいたのはありがたいが、ただどの自治体も本日話を伺って、課をまたぐ業務内容というような印象を受けたので、もしLIFULLの拠点を見に行く機会があるなど、今後のワーキンググループにはその担当所管の方とか、商工の担当の方にも参加していただきたいと思っていて、多くの方々に、このワーキンググループに参加していただけるようなことを、県からお声掛けいただけたら、ありがたいと思っている。

以上